



相談援助職の記録の書き方

八木亜紀子

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

精神保健福祉士

カリフォルニア州臨床ソーシャルワーカー

ayagi.lcsw@gmail.com <http://www.facebook.com/aalii.ayagi>



中央法規出版
2012年

『ケース記録』開示請求事件 概要 (p.15～)

- 平成11年4月、Xに対する高齢者福祉サービスホームヘルパー派遣申請に関してY市所属のケースワーカーが生活記録表(以下ケース記録)を作成した。
- Xの息子の妻Aがケース記録開示を要求したが、個人情報保護条例によりY市より拒否された。
- その後X自身が請求者となって開示請求をした。
- Y市は、ケース記録の大部分である黒塗り部分(以下本件非開示部分)は、条例の「個人の評価、診断、判定及び選考等に関する情報であって、本人に開示することにより、当該評価、診断、判定及び選考等に著しい支障が生ずる恐れがあると認められるもの」に該当するとして非開示部分の開示を拒否した。
- Xは非開示部分拒否処分を取り消しを求めた。



判決のポイント

- さいたま地裁(平成14年3月)
 - Xに対し非開示部分を直接開示すると、X、その介護者であるA及び担当ワーカーとの間で感情的な紛争が生じ、以後のサービスの提供について妨げとなることが予想されるとして棄却。
- 東京高裁(平成14年9月)
 - 担当ワーカーが行う申請者の実態調査は、福祉サービスの適正な提供のためであり、必要事項についての的確な表現を用いて記載がなされることを前提とする限り、担当ワーカーの所見部分を対象者に開示しても、担当ワーカーと対象者の間の信頼関係が著しく損なわれるとは認めがたい。
 - 担当ワーカーはケース記録の作成に当たり、適切な表現を用いるよう努めるべきであり、適切を欠く表現を用いてしまった場合は、開示の際に補足的に説明することによって信頼関係の維持に努めるべきである、として原判決を取り消した。

『ケース記録』非開示取消事件 概要

- 平成18年4月、生活保護受給者の男性Yは、自身の保護決定にかかる行政の把握する情報に事実誤認がないか等を確認する必要を感じ、区条例に基づき「生活保護ケースワーク記録」の開示を求めた。
- 区は同年5月、12ヶ所を非開示として黒塗り処分にした。
- 同年11月、非開示12ヶ所のうち、第三者の個人名の2ヶ所を除く10ヶ所の非開示処分の取り消しを求め、Yは東京地裁に対し行政訴訟を提起した。
- 区は平成19年1月、うち6ヶ所を開示（第二次非開示決定）。残る4か所の黒塗り部分について 区は、ケースワーカーの「生活状況などへの印象、評価を記載した部分を開示することになれば、（利用者）の反発を恐れて率直に記録しなく」なり、「記録が形骸化し、継続的な保護の適正な実施に著しい支障を生じるおそれがある」として非開示とした。
またB総合病院から訪問介護の必要性などを聞き取った部分も、「病院の協力を得られなくなる」として開示を拒否した。



判決のポイント

○ 東京地裁（平成19年7月）

- ワーカーが作成する記載内容は「客観的具体的事実」とそれを前提とした「専門的な知見に基づく印象や評価が記載されるもの」である。
- 「客観的具体的事実」に基づかない「主観的・感覚的な印象や評価」は「適正な」業務の遂行のために必要ではなく、それを記載しなくても記録は形骸化しない。
- 病院が、「専門的知見に基いて公正な判断をしている限り、患者に対しこれらの意見を秘密にする理由があるとは考え難い」から、特別の事情がない限り、B総合病院の意見等を開示したからといって、病院との信頼関係を害するとは考え難い。



記録作成の基礎 (P.10～)

- 記録は誰のために作成するか？

→記録は自分のための備忘録ではなく、読まれるための記録である

- 記録に求められる要素

- 逐語録(プロセスノート)VS進捗記録(プログレスノート)

- かつては臨床的妥当性についてのみ注目されていた。
- 90年代のアメリカではプログラム評価や損害賠償訴訟における記録の重要性が注目され、リスクヘッジとして機能するようになった。
- 記録が果たす機能
 - アセスメントと支援計画
 - サービスの提供
 - サービスの継続性と調整
 - スーパービジョン
 - サービス評価
 - 利用者、保険会社、所属機関、関係者、裁判所、監査機関への説明責任



リスクマネジメントのための記録 (p.20～)

- 専門家として倫理的責任・法的義務を果たす記録作成
 1. 記録の内容
 - 臨床的に必要かつ説明責任を果たすに十分な記録を作成する。
 - 危機介入について書きすぎない！書き過ぎ＝逸脱と見なされ得る。
 - 第3者に関する記載、家族介入の記入方法に十分に注意する。
 2. 表現と用語選択
 - 明解で具体的な表現をする。専門用語、略語はできるだけ避ける。
 - 名誉毀損を避ける。利用者に関する誹謗、中傷、悪口は禁忌である。
 3. 信頼性
 - 提供されたサービスの記録がタイムリーに残されていなければならない。
 4. 記録へのアクセス
 - 情報開示の手順を確立する(裁判所命令への対応を含む)。
 - 記録の保管方法(紙、電子とも)を確立する。
- 記録はいつでも開示され得るという前提で書く
 - 利用者の開示できる内容か？
 - 自分の家族が利用者だったら同じように記録するか？
 - 事実は絶対的な防御にはならない、真実≠必然性、妥当性



記録作成の注意事項

- 修正・改ざんできないようにする【修正・改ざんしていないと第三者が見てわかるようにする】
 - 手書きの場合
 - 鉛筆、シャープペンシルを使わない。
 - 筆記具は黒または青のペンを使う。
 - 修正液、修正テープは使わない。
 - 修正する場合は2本線で修正し、イニシャルまたは捺印
 - 吹き出し、矢印など使わない。
 - 手書き・電子カルテとも
 - 余白を残さない。
 - 記入しない項目は斜線で消す
- 二重帳簿を作らない、メモ書きを残さない【開示できない記録を作らない】
- 第三者が理解できるように書く。
 - 手書きの場合は第三者が読めるように書く。
 - 専門用語を使う場合は自分の業務範囲を順守して正確に使う。



記録のフォーマット

○ SOAP

- Subjective (主観的情報)
 - 利用者からの情報、主訴
 - 実証できない、裏が取れない情報
- Objective (客観的情報)
 - 面接中に支援者自身が見聞きした情報
 - 他の専門家や家族からの情報
- Assessment (アセスメント、見立て)
 - 利用者または問題に対する印象、解釈 ← 医師なら診断名
 - SとOの情報をおりまぜて利用者を立体的に描く
 - S、Oに書いていないことは書かない
- Plan (プラン)
 - 長期的ゴールと短期的ゴールを設定する
 - ゴールと手段を混同しない



望ましい支援計画

- 長期的ゴール(1～5年)と短期的ゴール(3～6ヶ月)を設定する。
 - ゴールと手段を混同しない。
 - 例えば、断酒はアルコール依存によって崩壊した家族関係を修復して尊厳を回復する手段であって、ゴールではない。
- 客観的で具体的、数値化できるゴールを策定する。
- 箇条書きにする。
- アセスメントに合致したゴールを設定する。
 - アセスメントと支援方針、サービス内容が連動している
 - 各かかわりの記録でいかにプランが達成されているか言及する
- 「〇〇のために〇〇↑、〇〇↓。」という表現にする。短所、欠点、問題にばかり焦点を当てない。
- 利用者の要望を取り入れる。



演習～SOAPで書いてみよう①(P.162)～

ペットボトルは前よりも開けられる。朝は開けづらい。リハの次の日はうまくいく。長時間歩くと疲れる。手に力が入るようになったらおしゃれしたいと笑顔だった。

S:

O:

A:

P:



演習～SOAPで書いてみよう①～

ペットボトルは前よりも開けられる。朝は開けづらい。リハの次の日はうまくいく。長時間歩くと疲れる。手に力が入るようになったらおしゃれしたいと笑顔だった。

S:ペットボトルは以前は40%ぐらいだったのが、今は50%ぐらいの確率で開けられる。朝は開けづらい。リハの次の日はうまくいく。長時間歩くと疲れる。手に力が入るようになったらおしゃれしたい。

O:「おしゃれしたい」と言うときに笑顔だった。

A:リハビリに前向きな様子が見られた。

P:現在のリハビリを継続し、回復に応じてケアプランの見直しを検討する。



演習～SOAPで書いてみよう②(P.164)～

妻が入院したと訪問介護より報告があったので 生活に不自由がないか伺う。

S:

O:

A:

P:



演習～SOAPで書いてみよう②～

妻が入院したと訪問介護より報告があったので生活に不自由がないか伺う。

S:日常生活の介助は近隣に住む別の家族に助けてもらっているとのことで、特に必要がないとのことだった。

O:同居している家族が入院したと訪問介護より報告があったので生活に不自由がないか伺った。体調に変化は見られなかった。

A:同居者がいなくなり、今のところ体調変化は見られず、ニーズの変化は認められない。しかし日々の体調変化のモニタリングが限定され、現行のプランではケアが十分でなくなる可能性がある。

P:日々の体調変化のモニタリングが限定される危惧を伝えた。必要があれば他の家族との連絡調整やプランの見直しが可能であることを伝えた。

